

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1 足立区役所

青少年課 青少年事業係

TEL.03-3880-5275 <http://www.a-shorenkyo.jp>

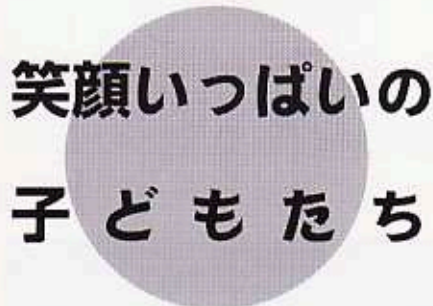
発行人 野辺 陽子

編集 調査広報部

大林 市川 小野田 高澤

手塚 田中 鈴木 川下

堀内 山岸 山川



冬の思い出

「火の用心」

足立区
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

今年のカレンダーも最後の一枚となった。この季節、夕暮れ時の冷たい空気には冬のおいがある。子どもの頃を思い出すこのなつかしい冬のおい……。

そこで、同時に思い出すのが「火の用心」のあの拍子木の音。どんな人が打っているのだろうか。窓からのぞいてみたいが、何となくこわかった。私が4、5歳の

ころの話である。どんな人なのだろうか見てみたいけれどこわいと思いがら、毎晩ねむりについていた。あとで聞いた話では町会でやとった夜まわりのおじさんだったということで、なんだか複雑な気持ちになった。

今はといえば、町会のおじさん達、それに子ども会の子も達が歳末に町内をまわってくれる。拍子木の音がすると、私は家から出て「ごくらうさま」と声をかける。子ども達も夜の町内を親達と一緒に「火の用心」と声をはり上げて聞いているのを聞くと、なんだかほのぼのとした気分になってくる。

このたびわが町内の子も達は、西新井消防署より表彰状をいただけるといふ吉報も入った。今年も、子ども達は一段とほりきって「ひのよおーじん」と言いながら、拍子木をたたきつつ、町内をめぐるのだらう。

足立区少年団体連合協議会の総会が開催される

日時 平成二十五年六月一日(土)
午後四時から
場所 足立区役所十二階
一〇五会議室

司会 鈴木(春)副会長
開会 山本副会長
会長挨拶 野辺会長

「少連協事業に対し、ご支援、ご協力を賜りありがとうございます。総会は一年間の総まとめの場です。活発そして慎重な審議をお願いいたします」と挨拶されました。
議長 加藤副会長
書記 小野田書記



が選出され、平成二十四年度から平成二十五年度合わせて十一項目の審議が滞りなく承認されました。今年度は、役員改選期ではありますが、書記の野口邦明氏が退任され、四宮淳司氏(蒲原地少協)のみの改選で、その他の役員は留任となりました。

なお、常任理事の退任・新任は、次の通りです。

【退任常任理事】

中川地少協 宝田 信夫

第十三地少協 佐野美智子

【新任常任理事】

中川地少協 下島 泰則

第十三地少協 小浜 幸

退任されました役員、常任理事の方々には、これまでのご支援、ご協力に御礼申し上げますとともに、これからも青少年健全育成に

対し地域はもとより、少連協活動に変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

【がんばる地少協助成団体】

- ・ 青井地少協
- ・ 中川地少協
- ・ 蒲原地少協

・ 洲江地少協

閉会の言葉を辻村育成部長が行い、総会は滞りなく終了しました。その後、五時三十分より十四階レストラン・ピカールにて懇親会が開催されました。
司会 大林副会長



▲青木光夫教育長



▲丸山昌哉小学校長会会長



▲羽住敏久スポーツ推進委員会会長



▲「青い山脈」の大合唱

総勢百二十余名で歌う足立区歌「わがまち足立」は、圧巻です。ほとんどの方が、歌詞を見ずに歌えています。

野辺会長の主催者挨拶、ご来賓の区長代理青木光夫教育長、馬場信男区議会議長にご挨拶いただき、

ご来賓紹介、丸山昌哉小学校校長会長の乾杯で、一気に会場全体の雰囲気も和み、各テーブルではいつまでも話がつきません。

しかし時間的制限もあり、最後は恒例の輪になって歌う「青い山脈」の大合唱、歌で始まり歌で終わる懇親会、羽住敏久スポーツ推進委員会会長の中締め、最後まで衰えることのないこのパワーとみんなの叡智が、これからの青少年健全育成に結集されることでしよう。

●就任あいさつ 小浜 幸
心新たに願うこと

今年度より第十三地少協の会長に就任いたしました。重責を担い、身の引き締まるおもいでございます。

地少協の役員をいたしまして、多くの諸先輩方の子ども達への想いなど、今まで多くのことを学ばせていただきました。

今年度で、第十七回となります「ミニ運動会」を開催してきました。より充実した「ミニ運動会」を目指し、役員と近隣子ども会の方々と話し合い、毎年パワーアップしたものとなっております。

常任理事見学会及び懇親会

平成二十五年七月十日(水)に常任理事で、新しくなったギヤラクシティの見学会を行いました。



プラネタリウムの中を十五分で案内してもらい、星空を少し

堪能し、一階玄関脇にあるクライミングばーく・スペースあすれちつく・デジタルきゃんぱす等を見学しました。その後、ホテルパインヒルで懇親会を行いました。



通う小学校が違う子ども達も、一堂に集まります。初めて会う子ども同士が、競技に真剣に取り組

み、思いっきり楽しむ姿は、私たち大人まで笑顔にさせてくれます。また、当日の運営を取り仕切る子ども会の方々のご協力には、毎回有難く感謝しております。

子ども達を見守り、日々の育つ環境の中から、遊びや体験から得る、学びや気づき、感情や知識、

喜怒哀楽を会得する機会を与えることは、今の時代に不可欠なことではないでしょうか。

その役割を私たちが担っていることを踏まえ、これからの活動に反映していければと、改めて心した次第であります。

体験を通して、子ども達が人としての生きる力を育んでいかれることを大いに願っております。

足立区少年団体連合協議会表彰

◎個人表彰

舎人地少協 小野田みよ子

◎団体表彰

新田ジュニア・リーダー組織
六月町会子ども会
青井地少協

がんばる地少協助成金交付

◎団体

- ◎青井地少協
- ◎中川地少協
- ◎蒲原地少協
- ◎淵江地少協



▲足立区少年団体連合協議会表彰

第二十三回育成者セミナー

事業研修部 滝澤 明子

平成二十五年六月三十日(日)
区役所庁舎ホールに於いて、百五十名の参加をいただき、育成者セミナーを開催しました。

テーマ 「今の子ども達の現状と子ども会の未来」

タイトル 「今、子どもたちのために、子ども会ができること、現代の子どもを理解し、ふさわしい子ども会を考える」

講師 東京学芸大学

松田恵示教授

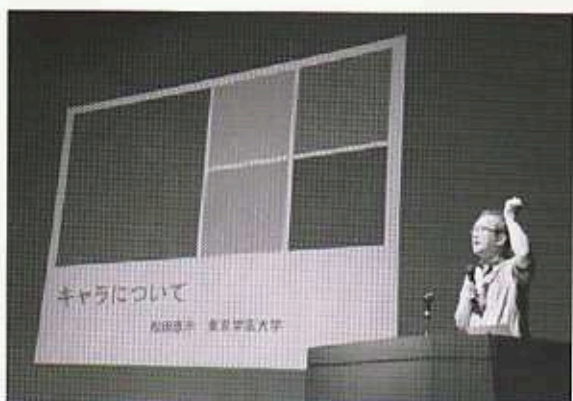
「現代の子どもを取り巻く環境と



子どもについて」を講演していただきました。

講演内容は、一九七〇年〜一九八〇年、社会で流行った物が、漫画になった「巨人の星」「アタックナンバーワン」「キャプテン翼」など、一九九〇年代は「スラムダンク」が流行り、バスケットをする子どもが増えた。「あきらめたところで試合終了、天才は九十九%の才能と一%の努力という現実(ノンフィクション)である」

漫画の一般的な構図「君と僕、個人的な話」「みんな、集団的な



話」「人間とは、世界的な話」で作られていた。「スラムダンク」は、「個人の過剰な内面描写」個人的な話」で、中間の欠如。

今、中間欠如が現代社会における「シンボル」の世界の衰退が問題である。「シンボル」が変わって「キャラ」が登場する。「シンボル」の衰退と人間感が解けていき、空気を読んで人と人を繋ぐものとして「キャラ」が登場し、「弄られキャラ」「毒舌キャラ」「虐めキャラ」等が登場する。子どもは、自分自身を探す。集団で



の役割で苛めと繋がる。

虐めを必要な子どもが生まれてしまう理由。集団に位置づけられない不安、「リーダーに頼る」「カッブルを作る」「共通の敵を作る」所属意識と安心感が生まれる。その後、水色とオレンジの用紙を使用して、幾つかの質問に答えていただきました。

【質問事項】

- ・地域の中にも「キャラ」があるのか?
- ・子どもの心を忘れないようにしているか?
- ・地域の中で一日に行う行事に参加する人数が減っているか?





- ・用意されている場面だけ参加することが多くなっているか？
- ・その後、分科会で各テーブルにわかれて、いろいろな意見交換ができました。
- ・単位子ども会のネットワーク作りは、親と親が顔見知りになることが重要。
- ・子ども会として、地域その他の行事を重ならないようにする。
- ・子ども会の中では虐めが見えてこないのは、虐められている子どもが参加してこないため。
- ・子ども会に魅力があるのか？
- ・行事をしていくに当たり、大人と子どもが一緒に企画していくことが必要。



- ・毎年、同じ行事の繰り返しになっっていないか？ 今の子どもが、望んでいるか？
- ・役員だけで行事を行うのではなく、親子で参加してもらい、ボランティアでお手伝いしていたら、その中から将来の役員と なってもらえるように努力する。
- ・子ども達を中心として行事を運営していく。
- ・楽しくしていると、沢山の子とも達が参加してくる。
- ・各地少協・各子ども会を抱える問題点は、同じようなもので、今後の課題も見えてきました。
- ・事業研修部として、今後の研修に生かしていきます。

◎第一分科会
 テーマ「ジュニアリーダー交流会」について
 今回は、特別に大人の会議にジュニアリーダーを参加させ、各区のジュニアリーダーによるレクリエーションゲームでの交流、活動内容、問題点を上げさせ、今後の養成を含めた会議を行いました。特にジュニアリーダーからは、各区のジュニアリーダーとの交流、意見交換ができ、これからも沢山

**江東五区少年団体代表者
 会議に参加して**
 副会長 大林 英夫

平成二十五年十月二十六日（土）に墨田区役所十三階大会議室にて江東五区（墨田区・葛飾区・江東区・江戸川区・足立区）の総勢六十二名の参加で、少年団体代表者会議が開催されました。
 足立区からは、少連協役員四名（鈴木副会長・辻村育成部長・小野田書記・大林副会長）、青少年課二名（大谷課長・明石主事）、ジュニアリーダー四名の計十名で参加いたしました。参加者は、第一分科会と第二分科会にわかれて、各テーマに沿って会議を行いました。

◎第二分科会
 テーマ「NPO法人東京都子ども会連合会（都子連）に関する情報交換」について
 全体的に、都子連との情報交換、共有がうまくいかず、都子連主催行事、会議にできない等の問題提議を話し合い、今後の各区組織での関わり方（ホームページなど情報の共有化、伝達のスピードアップ等）について、意見交換を行いました。
 その後の懇親会では、スカイツリーの足元でイタリアン料理に舌鼓をうちながら、参加者全員で楽しいひと時を過ごしました。

このような交流会・会議等の機会を作ってほしいとの意見が出されました。



▲第二分科会

赤城の森から

育成部長
辻村 宣明

今年もまた、ジュニアリーダー

キャンプが、国立赤城青少年交流の家にて、平成二十五年八月八日（木）より八月十一日（日）まで行われました。例年では、電車を乗り継ぎながらキャンプ場まで向かうのですが、今年初めてバスで直接キャンプ場へ向かうことになりました。子ども達は重い荷物を背負ったり降ろしたりの苦労や、長時間の電車での移動から解放され、楽々と目的地に向かうことができましたと思います。時間的にも例年よりも一時間早く到着できました。赤城の森は、蝉の声も賑やかに今年も多くの子も選を迎えて



▲今年はバスでキャンプ場へ

くれました。

屋根付き広場にてお弁当を食べた後、いよいよテントに移動しました。初めて参加する子ども達も緊張しているようですが、多くの仲間と一緒に楽しんでいきます。キャンプや炊事について説明を受けた後は、すぐに夕食の準備が始まります。今日はみんなの大好きなカレーです。かまどに火を熾すのに苦労したり、飯盆の火加減や炊き上がるまでの時間がわからなかったりしましたが、それぞれの班ごとに、美味しいカレーが出来上がり、みんなのお腹も大満足でした。夕食のあと、夜はキャンプ



▲屋根付き広場にて説明



▲かまどで火を熾す

ファイアを行いました。真つ暗なキャンプ場に燃え上がる大きな炎を囲み、大きな声で歌い、身体を動かして楽しく過ごしました。

二日目、高原とはいえ朝から日差しは強く照り付けていますが、今日も子ども達は元氣一杯、軽く体操し、朝食を摂って、今日のスタートです。この日は、「水鉄砲とペットボトルロケット」「巨大シャボン玉と万華鏡」「火熾し体験、燻製とお菓子作り」「ネイチャーゲームと葉っぱスタンプ」の四コースにわかれて活動しました。ペットボトルロケットでは、三十メートルを超える飛距離に大喜びし、暑の中の水鉄砲では、大はしゃぎでした。人が入りそうな巨大シャボ



▲巨大シャボン玉づくり

ン玉にビックリ、万華鏡を覗いて不思議な景色を楽しんでいました。マッチもライターもない時代、どうやって火を熾すのかを体験し、手作りアイスクリームの甘さに歓声があがっていました。ネイチャーゲームで自然の不思議を観察し、集めた葉っぱでスタンプしました。夕食はバーベキューです。モリモリ食べて明日に備えます。チャレンジ班は、明日の登山の準備をして早めに就寝しました。スタンダード班は、ナイトハイクに出発し、暗い夜道を懐中電灯の灯りを頼りに探検するように進みます。ちよつと怖いけど仲間と一緒に頑張りました。



▲鍋割山登山

三日目、チャレンジ班は鍋割山登山に向け、六時三十分の早朝にスタンダード班のみんなに見送られて、千三百メートルの頂を目指して元気に出発しました。スタンダード班は、朝食後ウォークラリーに出発しました。チェックポイントを回りヒントをもらいながら、ゴールを目指します。班の仲間で協力し、迷子にならないように赤城の森の中を探検しました。

昼過ぎに、無事に鍋割山登山を終えたチャレンジ班が戻り、全員で夕食の準備をしました。今夜のメインは豚汁です。そして、キャンプ最後の夜は、なんとピバーク(露営)です。幸い天気も良く雨の心配もないので、広場にブルー

シートを広げ、夜空を見上げながら、夜を過ごしました。ちょうどベルセウス座流星群が見られる期間でしたので、時折り流れ星を見ることができ、ラッキーでした。

四日目、楽しいキャンプもいよいよ最終日です。朝食を摂り、キャンプ場を掃除して交流の家に移動し、ゲームや寄せ書きなどをしてキャンプの余韻を楽しみました。昼食後、帰りのバスに乗り込み、帰路につきました。西新井に帰着する時間、ゲリラ豪雨に遭いましたが、ギャラクシテイの駐車場に着く頃には、ちょうど止んでいて難を逃れることができたのは幸運でした。

解散式の後、それぞれの帰路につきましたが、みんなの顔はとも爽やかで、三泊四日のキャンプをやり遂げた満足感が溢れているようでした。

また来年も、多くの皆様の力をお借りしながら、沢山の子ども達が多く体験を積み、多くの人との絆を深め、笑顔を見せてくれるようなキャンプができればと考えております。これからも、子ども達へのご支援をよろしくお願います。

少連協として思うこと

足立区少年団体連合協議会

会長 野辺陽子

このたびの青少年課の不適切な会計処理に対し少連協としての見解を述べます。

少連協が子ども家庭部より委託された事業である、ジュニアリーダー研修会・スキルアップ研修会・育成会入門講座・ジュニアリーダー宿泊キャンプ事前研修会及びジュニアリーダー宿泊キャンプ研修会の会計は、青少年課が行っていました。本来ならば受託した団体である少連協が行うべきものでした。しかし、委託されているが、会計処理を行わず、行政が代行している団体は、他に地区対や町自連など21あります。この21の団体の会計処理は適正に行われていたということですが、

青少年課も帳簿をつける、領収証をきちんと保存するなど、基本的な会計処理をしていたら、このようなことにはなりません。私達に落度があるとしたら、行政に対しても会計の状

況を細かく確認していなければならなかった点です。

しかし、長い期間、会計は行政が行ってきたため、会計については口出ししない方向で、今日まで来ていました。

言ってみれば、行政は聖域であるという意識が役員それぞれにあったということです。つまり、青少年課を信頼していたからこそのことなのです。

これからの少連協の活動に対しては、担当者の処分、また、残りの事業については支障のないように行くと教育長、部長もおっしゃっていました。

今後の委託事業に関しても、少連協の力がなくては絶対に行かないということでした。

なお、次年度からの受託事業に関しては少連協で会計処理まで行いたい旨は伝えてあります。私達には足立の子ども達を健全に育成していかなければならないという使命があります。今まで以上に少連協は結束を固くし、未来へ向かって全力を尽くしていきたいと考えております。

西新井ギヤラクシティ 研修会

中川地少協 下島 泰則

平成二十五年度がんばる地少協助成行事として平成二十五年九月二十九日(日)に、子ども二十八名・大人十九名・役員三名の総勢五十名で西新井ギヤラクシティでの研修会を行いました。

ギヤラクシティ内を見学と体験してもらって、今後の家族での利用を進めたり、プラネタリウム見学などによって興味を持ってもらうこと。

また、地少協としては初めての電車を利用しての研修会なので、安全や集団での移動に対しての参加者の意識づけなど、集合から解散までのルールを守る大切さを理解してもらおう研修会にしました。

今回、初めて来館する子どもが多く、歩きながら観て廻ったことすべてが新鮮だったようです。施設を見学しているだけの時でも、みんな興味深く観ていました。体験した順番も良かったのか、最後のスペースあすれちつくでは、みんな大汗をかきながら、大いに楽しんでいました。参加した子ども



達は、「今度は、家族で来てみたい」「また、子ども会(地少協)で来て、他の体験もしてみたい」など評判も良かったです。

今回は、行程もタイムスケジュールもほとんど予定通りに終了しました。

テニール大会 観戦記

第三地少協 本間 健司

平成二十五年八月四日(日)、第二十四回球技大会(テニール)を千寿双葉小学校校庭で開催しました。開会式・閉会式は、子ども達に負担がかからないよう体育館を利用しました。

今年は、ルールが変わり試合時間二十五分・二イニング制・全五チーム総当りで行いました。時間内に終了するか心配でしたが、一試合平均試合時間は、午前では二十三分、午後では二十七分かかり、

各チームの参加選手の数によって変わってしまうので、来年以降の課題となりました。

参加した子ども達の、一生懸命なプレーをみていた親たちも一喜一憂していました。

テニールの評判は上々で、来年に向けての反省も多々あるとは思いますが、反省を踏まえて良い大会にしていきたいと思います。

第十九回親子防災体験 お泊まり会

江南地少協 油井 亜記

江南地少協主催の三大大行事の一つであるこの行事は、平成二十五年七月十三日(土)・七月十四日(日)、足立区立宮城小学校にて、地区対・千住消防署・千住消防第七分団・宮城小学校・江南中学校・PTA・中学生ボランティア等、大勢の皆様協力賜り、例年にならない小学生多数参加の中、実施されました。

防災学習内容として、ゴミ袋を使用したカップ作り、仮設風呂、起震車、救急袋、巨大煙幕路、消火器使用、バケツリレーなどを二日間の中で体験します。今年は、劇団An・Anに依頼し、防犯を



テーマにした寸劇をしていただきました。また、防災食の食事・体育館での宿泊で避難所での大変な暮らしの一部を体験しました。

学業の合間を縫って日々の成果を披露していただいた中学生消防隊によるポンプ操法を見学、今年消防団操法大会で優勝した第七分団によるポンプ操法を見学し、「自助・共助・公助」の大切さや連携を学ぶことができました。

昨今の震災の爪あとが残る中、今後も皆様のご参加とご協力を得て実施継続の必要性を感じております。

編集後記

七年後の東京オリンピックが決まり、年を代表する漢字が「輪」となった。子ども達が何かの形で係わる、そんな輪を繋ぐ環境を私達が作っていこう。

調査広報部 田中 加代